

教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 一心豊かで 意欲的に学び合う子どもの育成					
重点目標		<ul style="list-style-type: none"> ・安心・安全に学習ができる環境づくり ・一人ひとりの居場所がある学級集団づくり 		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもにわかる授業の提供と指導力の向上 ・健やかな心と健やかな体づくり 		<ul style="list-style-type: none"> ・社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 ・家庭・地域・関係機関との連携 	
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の	基礎・基本の徹底と授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字・計算の繰り返し学習を実施することにより、基礎・基本の定着を図る。また、国語プリント集を購入し、学習の定着を図る。 ・図書の時間割は、1時間に1クラスの読書時間を確保し、読書活動の充実を図る。 ・家庭学習の習慣化をより一層図る。 ・目標と評価を一体化させたわかりやすく、楽しい授業づくりの工夫をする。 ・電子黒板やホワイトボードを活用し、視覚的な支援を基にして、主体的な学びになるような授業作りをすすめていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習に関するアンケート項目において、「あてはまる」と回答した児童と保護者、教職員が85%以上。 ・わかりやすい授業づくりに関するアンケート項目において、「あてはまる」と回答した児童と保護者、教職員が85%以上。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習に関するアンケート項目において、「あてはまる」と回答した児童と保護者、教職員が85%であった。 ・わかりやすい授業づくりに関するアンケート項目において、「あてはまる」と回答した児童と保護者と、教職員が89%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自学ノートの内容を新学習指導要領の「学習に向かう態度」「技能」「表現」にそったものになるよう模索していく。 ・児童にとって、「わかりやすく、主体的な学び」となる授業づくりができるよう、校内研究をすすめていく。目標と評価を一体化させることをさらに意識していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予習復習を意識して家庭学習が定着してきている。 ・蔵書の電算化が図られ、図書室の機能がアップした。本好きの子どもが増えるよう図書機能の充実を望む。 ・ICT機器の活用を充実させることで、「わかる授業」づくりを工夫してほしい。
	児童の個性を生かす教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○互いを尊重し合える仲間づくり ○思考力・判断力・表現力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの良さを見つけ、互いに伝え合うことをめざす授業づくりに取り組む。 ・授業にペア学習やグループ学習をとり入れる。 ・どの教科においても書く活動を取り入れることで、学力の定着をはかる。 ・昨年度作成した伝え合うことについての学団ごとの目標を検討する。 ・みんなが主体的に学習に参加するための場づくりについて模索し、研究授業で提案する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰とでも関わり合い、認め合うことができる。 ・「書く活動を取り入れる」ことについての教職員アンケートにおいて、「あてはまる」と答えた教師が80%以上。 ・系統表に基づいた授業づくりを行い、検証する。 ・指導内容に応じた場づくりを提案し、全職員で検討する。外部講師を招いて指導助言を得る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・伝え合い活動が充実し、子どもたちに「伝える力」「聴く力」が育ってきている。 ・校内授業研究ではホワイトボードやクリアファイルなどの思考ツールを考えを可視化するために利用する方法や、グループ構成を工夫することで伝え合いを活性化する授業の提案がなされた。 ・書く活動については95%以上の教師が意識して授業に取り入れており、子どもたちにも書く力が育ってきている。 ・系統表については、教科の枠にとらわれない共通の姿としたため、当てはまらない場合や意識しにくい場合もあった。 ・校内研究においては新学習指導要領の示す三つの力についての目標を記入し、いまめざすべき思考力・判断力・表現力を育てるための授業づくりについて考えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きペアやグループ学習などの充実に努めるとともに、主体的に学習に取り組むために自力解決の時間を確保した授業構成を考えていく。 ・書く活動については引き続きどの教科でも取り組んでいく。 ・学団ごとの伝え合う姿についての目標を吟味し、児童の実態にあったものになるよう検討する。 ・主体的に伝え合いに参加するための手立てについて、使いやすいホワイトボードなどの環境整備を進めていく。また学習課題や単元構成のありかたについても研究を続けていく。

教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 一心豊かで 意欲的に学び合う子どもの育成						
重点目標		<ul style="list-style-type: none"> ・安心・安全に学習ができる環境づくり ・一人ひとりの居場所がある学級集団づくり 		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもにわかる授業の提供と指導力の向上 ・健やかな心と健やかな体づくり 		<ul style="list-style-type: none"> ・社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 ・家庭・地域・関係機関との連携 		
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
向上	特別支援教育の推進、充実	○計画的・組織的な支援体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・共に生き、ともに学ぶ学級・学校の実現を図る。 ・子どもや保護者の思い・願いを受け止めながら支援する。 ・関係諸機関と連携を取りながら、巡回相談やコンサルテーションを有効的に活用し、支援の必要な児童への理解を深め、支援方法を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な子どもの特性を共通理解する研修を年に2回、特別支援教育についての校内研修を1回行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級の児童についての研修会を年2回、スキルアップ研修会を1回実施できた。児童の実態把握をし、特別支援教育に対して関心を持ち、工夫した授業づくりや学級経営に取り組む先生方が増えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的だった支援方法を周知し、共通理解をしながら、さらに意識を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の支援体制の流れができてきて関係機関との連携も図られている。今後も充実できるよう頑張りたい。
		○個別の指導計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・支援が必要な児童については校内委員会で情報を共有し、職員全体へ共通理解を促していく。必要に応じてケース会議を開く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の評価アンケート「校内支援委員会が効果的に機能している」と回答する割合が90%以上になる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の評価アンケート「校内支援委員会が効果的に機能している」と回答した割合が93%であった。 ・部会内で情報交換をしながら、児童について共通理解ができた。 ・転籍や進学に関して話し合いが必要な児童については、じっくり協議するため、早めに保護者と話をしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内教育支援委員会で、児童にとってふさわしい進路、在籍を考えていくため、今後も保護者と連携していく。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・合理的配慮をふまえた個別の指導計画を作成し、ステップぐんぐんや校内支援ファイルを通して、継続的な支援を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の評価アンケート「個別の指導計画に基づき一人一人の教育的ニーズに応じた指導に努めている」と回答する割合が85%以上になる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の評価アンケート「個別の指導計画に基づき一人一人の教育的ニーズに応じた指導に努めている」と回答した割合が85%であった。 ・学期ごとに個別の指導計画を立てながら、支援方法について精査できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PDCAのサイクルを確立するため、個別の指導計画を見直したり、加筆したりし、より充実した指導計画を目指す。さらに次年度の引継ぎにも有効的に活かしていく。 		

教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 一心豊かで 意欲的に学び合う子どもの育成一					
重点目標		<ul style="list-style-type: none"> ・安心・安全に学習ができる環境づくり ・一人ひとりの居場所がある学級集団づくり 		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもにわかる授業の提供と指導力の向上 ・健やかな心と健やかな体づくり 		<ul style="list-style-type: none"> ・社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 ・家庭・地域・関係機関との連携 	
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
豊かな心・健やかな体	問題行動への指導・対応	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会などを行い、職員間で児童理解を深めると共に、指導力の向上を目指す。 ・学級担任だけでなく、学年全体・学校全体で天小の児童に関わっていく。 ・三校合同研修会など、中学校とも連携を図る。 ・多様化する事案に対応できるよう、部会内での内容を学年会などで伝達し、全職員で共通理解を図る。 ・「いじめ対策基本方針」について、改めて共通理解を図る。 ・「いじめアンケート」調査を実施し、適切な対応を図る。 ・不登校傾向にある児童の家庭と連携を図り、関係機関につないでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回、生活指導部を開き情報交換を行い、問題行動については組織的な対応を行う。 ・年度初め、夏季、年度終わりに研修会を開く。 ・児童アンケート「困ったときや悩んだとき、不安なときに、相談できる先生がいる」と回答する割合が80%以上になる。 ・いじめ対策委員会を必要に応じて開く。 ・不登校傾向にある家庭と連携しながら、関係機関につなぐ。 ・不登校対策委員会を必要に応じて開く。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の部会で定期的に情報交換を行うことで、問題行動を把握し、ふれあい相談員も含めて組織的に対応できた部分が多かった。 ・年度初めと年度終わり、研修会では、特別支援部と連携して目的を絞った話し合いができた。また、1月にサイバー対策研修会を実施した。 ・児童アンケートの結果は、62.7%だった。前年度(56.7%)と比べて、増えている。 ・情報交換と併せて、対策委員会を行うことで、いじめにあたるような事例にも組織的に対応することができた。 ・不登校対策共通実践事項を配布し、欠席が月3日以上の子童についての共通理解を行った。 ・不登校傾向にある児童については、家庭と連携しながら、関係機関につなぐことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・困ったことや悩みを打ち明けやすい学級作りについて、言葉かけや子どもとの関わり方なども見直していく必要がある。 ・「相談できる先生」が、学級担任だけでなく、学年にも広げられるよう、学年全体で子どもと関わる意識を高める。 ・職員の資質や指導力の向上を目指して、カウンセリングマインド研修等、研修会を工夫しながら継続的に実施していく。 ・引き続き、欠席がちな児童には、家庭訪問や電話連絡等で保護者対応を密にしたり、職員間で情報を共有化したりして、組織的な協力体制をさらに構築する。また、関係機関と連携を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校の児童が年々増えてきている。ゲームやスマートホンなどで昼夜の逆転が起きTりるのではないかな。規則正しい生活リズムができるよう頑張って欲しい。 ・問題行動は少し減ってきているが、新たにライン、SNS等での問題が出てきている。サイバー対策研修など子ども、教師、保護者の三者一体の研修を実施して欲しい。
	規範意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・生活目標や生活のきまりを守れるように、日頃からの声かけや学級や全校集会で話をする。また掲示物を工夫する。 ・学年会や部会などで、児童の生活の様子について振り返る機会を持ち、全教職員の意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート「子どもはあいさつなどの基本的な生活習慣が身につけている」と回答する割合が90%以上になる。 ・教職員アンケート「問題行動が起きた時、組織的に対応できる体制が整っている」と回答する割合が90%以上になる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの結果は、90.6%であり、達成することができた。 ・教職員アンケートの結果は、86%であり、前年度(85%)とほぼ変わらなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・旗当番の方から、登下校中に挨拶をしないという意見もあり、継続的に指導していく必要がある。 ・学校だけでなく、家や地域でも挨拶に取り組めるよう、学校だより等による啓発やPTAとの連携をしていく。 ・問題行動が起こった時に組織的な対応ができるように、生活指導部を中心に体制づくりを行う。 ・部会だけでなく、学年会でも子どもの様子を常に話し合える関係を作り、ささいなことでも報告しあうようにしていく。 ・教職員に報告、連絡、相談を徹底させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動に対して組織的な対応ができてきている。 ・挨拶ができる子は増えてきているが、まだまだ不十分である。
	親切、思いやりの心を持つ子どもの育成	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や地域社会の実態を踏まえ、道徳科の年間指導計画の作成に当たり、全体計画に示した重点的な指導が反映されるように配慮する。 ・主に教科用図書を中心とした年間指導計画をもとに授業・評価を行う。必要に応じて年間指導計画を改定する。 ・道徳研修会で評価の視点を検討する。 ・評価を見通した授業に取り組んでいく。 ・毎時間の学習の振り返りを記録している「道徳ノート」や発言・態度から児童の成長を認め、励ます評価文を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「自分を大切にすることや、他人への思いやりについて教えてくれている」と回答する割合が90%以上になる。 ・2月末に各学年の年間指導計画を見直す。 ・部会で評価の視点を検討して、各学年別の4つの内容項目での評価文例を作成する。 ・「道徳ノート」に自分とのかかわりで道徳的価値をとらえた記録文が書けるようになる。「今の自分は～」「自分だったら～」と自分ごととして捉えられているか) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「自分を大切にすることや、他人への親切や思いやりについておしえてくれている。」と回答する割合が84.3%であった。 ・評価の視点を4つの内容項目にしたことで道徳的評価をとらえた記録をもとに評価文が書けた。 ・各学年の評価文例を残すことで児童の実態を把握し年間計画の見直しにも役立てることができる。 ・教材分析や授業の展開の研修をもつことができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態にあった教材を選び、がまんする心や他人への親切・思いやりの心の向上をはかる。 ・4つの内容項目の評価の視点をもとにした各学年の評価文例を作成する。 ・道徳的価値を多面的・多角的にとらえ、より深い学びになる授業作りの研修を計画的にもつ。 ・ローテーション授業の提案 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も道徳授業の授業の充実を望む。

教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 一心豊かで 意欲的に学び合う子どもの育成						
重点目標		<ul style="list-style-type: none"> ・安心・安全に学習ができる環境づくり ・一人ひとりの居場所がある学級集団づくり 		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもにわかる授業の提供と指導力の向上 ・健やかな心と健やかな体づくり 		<ul style="list-style-type: none"> ・社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 ・家庭・地域・関係機関との連携 		
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
豊かな心・健やかな体	体力の向上	○体力づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に即した指導方法を検討していく。 ・体力の向上につながるイベントを企画・運営をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに学年内で教材研究を深め、児童の実態に応じた場の設定や教材の選択をする。 ・体力テストの結果を参考に、課題となる力を向上させる。 ・体育大会やドッジボール大会を企画・運営をし、体力の向上を目指す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとに教材研究を深めて実施できた。 ・児童の実態に応じて、ルールや場を工夫することができた。 ・持久力に課題があることがわかった。持久力を向上させる取り組みは実施できなかったが、各授業内で運動量が十分に確保できるようにした。 ・安全に配慮して実施できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会を行い、様々な指導方法を検討・共有して授業に生かしていく。 ・授業内の運動量を確保するとともに、持久力向上につながる取り組みを考えていく。 ・「運動ネタ」の資料を参考に、学年ごとに実施できるものを検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力面は市内でも上位だが、体力の2極化が進んでいる。体育の授業を充実させ、天神川小学校の特色であるスポーツ21やいたボール、陸上大会への参加を積極的に進めて欲しい。
		○健康な身体・心身の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに応じた保健学習、保健学習参観、発達段階に応じた保健指導、「ほけんだより」を活用し家庭教育と連携した保健指導の実施により生活習慣の改善を図る。 ・クラスでの保健指導の材料として使用できる「保健だより」を作成し「保健だより」を配布する前に、職員朝礼で職員に伝える。配布時に担任が「保健だより」を使って保健指導をして児童が健康の大切さを意識できるようにする。 ・懇談の機会を利用して、個別にむし歯・歯肉炎の治療や視力低下児童の早期受診を呼びかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠、食事、身の回りの清潔等、基本的な生活習慣の改善を図る。 学校評価アンケートの「学校は、健康の大切さについて保健の授業や保健だよりなどで指導している」という項目において「あてはまる」と回答した児童と保護者、教職員が85%以上。 ・むし歯・歯肉炎・視力低下で一度も受診していない児童の解消をめざす。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○カリキュラムに応じた保健学習及び保健学習参観では、児童の発達の段階を考慮して学年でテーマを考え実施することができた。とくに保健学習参観では、多くの保護者から家庭でも取り上げにくい内容を学校で教えてもらえるのはありがたいという意見が多かった。また、がん教育の講演会を行った。難病を抱える子どもや保護者にとって、学校の関わりがとても大切なことを学べた。 ○転地学習前と修学旅行前に月経指導を行うことで、自分の体の変化に対する知識を深めた。また、月経指導をする児童が増える等相談しやすい機会にもなった。 ○年間を通じて保健行事の際に、ミニ保健指導を行うことで、その月の保健目標について具体的に指導し保健目標の強化につなげたり、その時季に流行するけがや病気の予防に努めた。 ○懇談の前にむし歯や視力低下のため受診が必要な児童に対して受診勧告書を配布して、早期受診を呼びかけた。また、学期に1回ずつ「けんこうカード」により未受診の家庭にお知らせをした。さらに、懇談時に個人の健康健診一覧表・いい歯の日に未治療の児童に対して受診勧告書を全3回配布した。 ○「保健だより」を配布するときに、児童と一緒に読み、保健だよりを利用してポイントをつかみながら保健指導できた学級もあった。 ○長期休業明けに「すくすくチェック」を実施し、生活のリズムづくりへの意識化が図れた。 ○学校評価アンケートの「学校は、健康の大切さについて保健の授業や保健だよりなどで指導している」という項目においてA+Bは、高学年児童72.9%(昨年63.8%)保護者98.2%(昨年98.7%)教職員96%(昨年88%)だった。 ・学校にある教材が古くなっている。 ・むし歯の受診率48.3%(昨年37.8%) 視力の受診率47.0%(昨年61.5%) ・高学年児童のアンケートの結果は、昨年より上がったものの目標には満たない。 ・保健室登校の増加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年で夏休み等を利用して教材を見直し、新しく作成する。 ・むし歯や視力の治療を、受診勧告書・けんこうカード・保健だより等、多くの機会をつかって呼びかけていく。 ・全く受診に行かない家庭へは、懇談の機会に個別に受診を勧める。 ・定期的に「保健だより」を発行するとともに、クラスでの保健指導の材料として使用できる「保健だより」の作成をめざす。「保健だより」を配布する前に、職員朝礼で職員に伝える。配布時に担任が「保健だより」を使って保健指導をして児童が健康の大切さを意識できるようにする。 ・「すくすくチェック結果」をもとに、週末に遅くまで起きていたり、平日より起きる時刻が遅かったりする家庭の習慣を改善するよう保護者に呼びかけていく。 ・保健室登校の利用の対応の仕方について、統一したものを今後作成していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね旅行である。

教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 一心豊かで 意欲的に学び合う子どもの育成						
重点目標		<ul style="list-style-type: none"> ・安心・安全に学習ができる環境づくり ・一人ひとりの居場所がある学級集団づくり 		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもにわかる授業の提供と指導力の向上 ・健やかな心と健やかな体づくり 		<ul style="list-style-type: none"> ・社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 ・家庭・地域・関係機関との連携 		
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
開	学校情報の積極的な発信	<ul style="list-style-type: none"> ○ホームページの整備、学校だよりなど地域への公開 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページで学校の情報を発信する。 ・多くの職員がホームページの更新作業に関わることができるよう、マニュアルを作成する等環境の整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の活動の様子を月2回以上を目安に更新する。 ・行事や児童の活動の様子について、ホームページを通じて学校外へ発信する。 ・月間の行事予定や学校からの連絡をホームページで知らせる。 ・HP更新マニュアルの作成と更新の啓発 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職も一緒になって、休み時間の子どもたちの活動の様子や授業風景をホームページで発信することができた。 ・反面、行事の重なりなどもあり、達成できない月もあるのは昨年度と同様のもとなってしまった。 ・警報発令時の自宅待機のお知らせや解除による登校のお知らせをHP上で素早く伝えることができた。 ・月間予定の更新を継続して行うことができた。 ・更新のマニュアルを作成し、各学年に配布することができた。 ・更新の頻度が少ない所には声かけなどの啓発を行い、更新を促すことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の重なり等で1ヶ月に2回以上という目安が達成しにくいところもあるので、年度の学年行事予定などを加味して、更新の計画を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね良好である。
		<ul style="list-style-type: none"> ○参観授業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンスクールや授業参観で学校を公開し、学級懇談会・講演会などで情報を発信する。 ・保健参観では、講演会を開いた。保健担当者と協力して講演会の参加人数が増えるように、後援者・内容等のお知らせのプリントを作成していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年1回のオープンスクールと年5回の授業参観を実施し、参加が増えるような学級懇談会、講演会を工夫する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・参観に関するアンケート項目で「あてはまる」と回答した保護者が100%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者が増えるために、学校の実態に合わせた講演会の内容に変更できないか検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の情報などをホームページ、学校だより、ミマモルメ、掲示板等で発信できている。
		<ul style="list-style-type: none"> ○ホームページの整備・学校だよりなど地域への公開 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページでタイムリーな情報を発信する。 ・多くの職員が、ホームページの更新作業に関わることができるよう、行事ごとに更新する担当を決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の活動の様子を月2回以上を目安に更新する。 ・行事や児童活動の様子について、役割を決めホームページを更新する。 ・近日中の予定や連絡をホームページで知らせる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用し、児童の学校生活が見えるように紹介するなど、保護者が興味を持つような学級懇談会を工夫していく。 		

教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 一心豊かで 意欲的に学び合う子どもの育成						
重点目標		<ul style="list-style-type: none"> ・安心・安全に学習ができる環境づくり ・一人ひとりの居場所がある学級集団づくり 		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもにわかる授業の提供と指導力の向上 ・健やかな心と健やかな体づくり 		<ul style="list-style-type: none"> ・社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 ・家庭・地域・関係機関との連携 		
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
かれ信頼される学校園	危機管理体制	<ul style="list-style-type: none"> ○安全教育の取り組みと避難訓練の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種危機管理マニュアルの作成。 ・避難訓練の実施。 ・防犯訓練の計画・実施。 ・定期的な安全点検や登下校指導。 ・事故防止、交通安全の啓発。 ・交通安全教室の実施。 ・風水害の恐れがある場合の、警報発令時の下校方法の改善。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の避難訓練、年1回の防犯訓練、年1回の緊急時下校訓練を実施し、教職員・児童共に緊急時の適切な対応について理解し、身につける。 ・研修を行い、職員の緊急時の対応や連絡方法について理解を深める。 ・不審者対応時の流れを計画し、教職員・児童共に緊急時の適切な対応について理解し、身につける。 ・年16回の登校指導、年10回の下校指導を行う。 ・引き継ぎノートを活用し、通学路の安全についてや、児童の登下校の様子について指導を行う。 ・学校周辺の事故の連絡などを行い、児童に危機意識を持たせる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・計画通り年3回の訓練を行うことができた。 ・防災カードの見直しを行った。 ・防犯訓練の実施で、不審者が侵入してきたときの身の守り方を児童が確認できた。今後、教師の動き方や道具の使い方などを確認する必要がある。 ・非常時にはトランシーバーの活用をした。 ・引継ぎノートを活用することで、危険箇所や注意事項について職員間で共有することができた。 ・自転車安全教室(3年)を実施し、交通安全に関する子どもたちの意識の向上を図った。 ・警報発令時の下校方法を地区別下校から、学年ごとに変更し、素早く下校できるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な事案に対応できるよう、訓練の内容を見直していく。 ・外部講師を呼んで研修会を行うなどして、職員も防災や防犯の意識の向上とそれに関する知識をつける機会を設ける。 ・全職員がトランシーバーの活用をできるようにする。 ・トランシーバーの定期的な点検を行う。 ・自転車の安全な乗り方について、継続的に指導を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車の安全な乗り方について、引き続き自転車安全交通教室を実施して欲しい。被害者側だけでなく、加害者とも成り得ることを教えてもらいたい。
	教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○学校教育環境充実のための取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃用具の点検・充実。 ・清掃用具の見直しを行い、その場にあった用具を使う ・委員会活動との連携。 ・職員作業として、周辺環境の整備。 	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃用具の定期的な点検と補充等を行う。 ・用具の正しい使い方の指導を引き続き行うとともに、壊れたままの清掃用具を0にする。 ・清掃活動を通して、気持ちよく生活できる教育環境が維持できるように啓発活動を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃場所にあった清掃道具の見直しを行い、定期的な点検・補充を行った。 ・必要な用具を買い足したり、壊れたままの清掃用具をなくすように取り組んだ。 ・委員会活動と連携し清掃の点検をすることができた。 ・長期休み前に、各学年割り当て、普段及ばない箇所も掃除することができた。 ・夏休みに行った保護者・職員合同の清掃において、割り当ての範囲が広がったり、付き添いの児童の学年によって割り当ての配分を考える必要があるという反省が挙げられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃用具の修理や見直し、学校周辺の清掃、整備を継続して行う。 ・壊れたままの清掃用具が0になるように、委員会とも連携しながら声かけを続ける。 ・夏休み前の清掃では、前もってPTAと具体的な打ち合わせをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね良好である。

教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 一心豊かで 意欲的に学び合う子どもの育成						
重点目標		・安心・安全に学習ができる環境づくり ・一人ひとりの居場所がある学級集団づくり		・子どもにわかる授業の提供と指導力の向上 ・健やかな心と健やかな体づくり		・社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 ・家庭・地域・関係機関との連携		
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
教職員の資質向上	教職員の研修の充実	○授業の質を高める授業研究	・校内研修として年1回以上授業を公開する。 ・授業の質を高めるための教材研究や研修、研究を充実させる。 ・主体的に学習に取り組むために、「めあて」「ふりかえり」を工夫する。 ・外国語、道徳の研修を充実させる。	・全教員が年1回以上授業を公開する。 ・年9回の校内研究と、随時スキルアップ研修を行う。 ・主体的に学習に取り組むために、「めあて」「ふりかえり」を工夫する。 ・年3回以上の研修を行う。	B	・できた。2回授業を公開する人もいた。 ・年9回の校内研究を実施した。また月1回程度スキルアップ研修を行うことができた。 ・事前研修や事後研修では、めあてを吟味し、そのめあてに対するふりかえりができているか考えることができた。 ・外国語1回、道徳1回の研修を行った。職員会議などで情報を伝達する機会を設けた。	・教師の授業力向上のために今後も全教員が授業公開に取り組んでいく。 ・今後も校内研究やスキルアップ研修の機会を確保していく。研修内容についても検討していく。 ・引き続き、「めあて」「ふりかえり」を柱として授業づくりを行う。 ・外国語、道徳の授業づくりや評価の仕方についての研修を増やしていく。	・先生方の意識改革により研究を通して授業改善が進められている。
		○全職員の学校教育目標達成に向けた参画 ○児童の現状を踏まえた教育課程の編成	・学校教育目標に向けたPDCAサイクルに基づいた教育活動を実施する。 ・新学習システムを児童の実態に応じて円滑に運用する。	・学校教育目標に関するアンケート項目について、「あてはまる」と回答した教職員が85%以上である。 ・教育課程の編成に関するアンケート項目について、「あてはまる」と回答した教職員が85%以上である。		A	・学校教育目標に関して、「あてはまる」と回答した教職員は90%だった。 ・学校教育目標を達成に向け、全教職員の共通理解が深まり、学校教育活動を十分に実施することができた。 ・教職員の編成に関するアンケート項目で「あてはまる」と回答した教職員が92%であった。本校の現状を踏まえた教育課程を編成し、実施することができた。	・今後も教育糧部と研究推進部、生活指導部が連携し、知/徳・体のバランスのつられた児童を育成するために、現状を踏まえた学校教育活動を実施する。 ・来年度より新学習学習指導要領の移行期間に入り、教科の内容変更や時数の変更により、教育課程の再度見直しをしている。児童の負担がないよう行事のバランスや時間割の作成を行っている。
学校の現状を踏まえた教育課程・組織運営	校務分掌等の連携	○一人一役の校務分掌・職場の同僚性 ○部会を活用し、担当者だけの負担にならないよう分担していく。	○校務分掌に関するアンケート項目において、「あてはまる」と回答した教職員が85%以上である。	B	・校務分掌に関するアンケート項目において、「あてはまる」と回答した教職員が73%で、85%を達成できなかった。		・仕事に偏りがでているため、もう一度見直していく必要がある。前年度の引継ぎの参考として作られている各部の活動歴を活用しながら、それぞれの校務分掌に取り組んでいく。 ・来年度も、全職員で協力しながあ、組織で動いていく。	・概ね良好である。

学校関係者評価総括

- ・基礎学力をつけるために、学校、家庭、地域が連携し、共通認識のもと家庭学習等に取り組んで欲しい。また、自学ノートで予習、復習の習慣を作るとともに、中学校のマイ学ノートとの連携も図って欲しい。
- ・ICT機器等を活用し教師の授業力を高めるとともに、授業のユニバーサルデザイン化を図り、だれもが分かる楽しい授業づくりに努めて欲しい。
- ・ホームページ、学校便り等で学校の様子、取り組みがよくわかる。今後も、今後も行事等を通して保護者、地域との連携を深め、子どもの健全育成に努めて欲しい。
- ・危機管理意識をしっかりと持ち、学習環境を整備し安全で安心できる学校生活を推進して欲しい。

次年度に向けた重点的な改善点

- ① 学校、家庭、地域の連携をさらに深めることができるよう、コミュニティスクールをさらに充実させ、地域とともにある学区づくりを推進する。
- ② タブレット等導入されるICT機器の研修を充実させ、「わかる授業」の創造と基礎基本の確実な定着を図り、さらなる学力向上を目指す。
- ③ 蔵書の電算化を機に、本の貸し出し等を充実させることで、読書習慣の定着を図る。
- ④ 子どもに寄り添った共感的理解に基づく生徒指導を行うとともに、組織的な協力体制及び関係機関との連携をさらに進め不登校児童を減らす。